

新図書館での「名取らしい」市民協働を探る
ライブラリーミーティング

日 時：平成29年10月15日（日）13：00～15：00

場 所：名取市役所 議会棟3F 第2委員会室

参加者：12名（教育委員会・図書館事務局は人数に含まず）

佐々木賢一生涯学習課長補佐、

岡本真 新名取市図書館建設アドバイザー、

鎌倉幸子ARG、柴崎悦子図書館長ほか事務局2名

1、あいさつ 柴崎館長

本日は、仙台空港では宮城インバウンドフードフェス、閑上ではおまつり、市内では公民館まつりが2か所ほど開催され、そのようなイベント盛りだくさんの中で、ライブラリーミーティングにご参加いただきましてありがとうございました。

今日は、前回に続いての開催となります。新名取市図書館建設アドバイザーの岡本真氏にお越しいただいています。それでは、よろしくお願ひします。

2、ワークショップ 岡本真アドバイザー

①はじめに

・前回のワークショップのふりかえり（説明）

本日は、ライブラリーミーティングにお越しいただきましてありがとうございました。どなたもお越しいただけなかったらどうしようかと思ひました。

本日、初参加の方もいること、前回のおさらいのお話しをさせていただきます。

— 9月18日（月）記録参照 —

・本日の話し合う内容（説明）

▶第1回で洗い出した大勢が共感する願望（私たちごと）一つひとつについて、それを達成するために必要な「ヒト・モノ・カネ」を洗い出していきます。このプロセスを通して

1、名取市役所・名取市図書館が行政として実施できること

2、名取市民らが市民活動として主体的に実施できること

3、行政と市の協働があつてはじめてできること

を明らかにして、参加者全員の共通理解としていきます。

▶目標：

▶各活動団体の自主性を尊重しつつ、名取市全体で図書館と協働する市民活動の枠組み＝プラットフォームとしての協働組織体（名称例：友の会、サポーター、フレンズ等）の形成を図る。

▶構成（2本×3回）

- ▶#1 「私たちの願望（ウィッシュ）を見つけよう」→9/15
- ▶#2 「私たちの願望（ウィッシュ）を持ち寄ろう」→9/15
- ▶#3 「私たちの願望（ウィッシュ）をわかち合おう」→10/15
- ▶#4 「私たちの願望（ウィッシュ）を形にしよう」→10/15
- ▶#5 「私たちの願望（ウィッシュ）を鍛えよう」
- ▶#6 「私たちの願望（ウィッシュ）を伝えよう」

②#3 「私たちの願望（ウィッシュ）をわかち合おう」（約30分）

まず、各グループで、前回のワークショップで出された考えをお互い思い出すために、それぞれ披露してみましょう。そして、わかち合ってみましょう（4名×3グループ）。

— グループワーク —

③#4 「私たちの願望（ウィッシュ）を形にしよう」（ワークショップ）（約70分）

やりたいことをどのように実現していくか、各グループで4名いるので一人一案で、4案を出してみてください。

これを実現するためには、人、物等が必要か話し合ってください。特に、人手が必要になるかと思えます、また何かやるためにはお金がかかりますが、うまく知恵を皆で出して賢くできるか話し合ってください。出された4案位を誰がやるべきか、次の3つにどれにあたるか、分けてみてください。

- ・図書館の責任としてやるべきこと。
- ・図書館員が行わなくても私たちでもできること。
- ・双方で協力しないとできないこと。

— グループワーク —

⑦各グループからヒアリング

岡本真アドバイザーが各グループを回って、どんな案が選出されたかヒアリングをして、アドバイス。

【各グループの案：一例を記載】

- ・高専生⇒安い人件費ではない。ボランティア、専門性を評価してあげる必要があります。学生はタダ、自分たち（学生）を安く買ったたいていいる感、無償の労働力というイメージができてしまうと離れていきます。この点を加味してブラッシュアップしてみてください。

- ・宅配⇒市民が配本する力は大きいですが、個人が借りる本のプライバシーを守る点で課題が残ります。コンビニを通じて配本をすることもありますが、他の自治体事例として、神奈川県茅ヶ崎市がケーブルテレビの会社が配本を代行で行っています。これは、ケーブルテレビの会社が市民からテレビが映らないといった対応等で日々車を走らせています。その中で図書館の配本の請負サービスをしている所もあります。
- ・トイレはどこ？～名取市の案内・気軽に相談ができるカウンター：ガイド（ボランティアの人たちができる範囲）⇒国際交流員、国際交流協会が名取はあり盛んであること、仙台空港があり、今後そのような人が増えることを見越した場合、よいかもかもしれません。また、閑上のおいしい所などは図書館員がお店のひいきにあたり言いづらい部分があるので、市民が案内する部分ではよい考えだと思います。
- ・自力で来館できない人へのサービス（どの辺まで要望に応えるかが課題・必要とするサービスの調査が必要と考えています）⇒確かに、どこまでサービスが受けられるか、分からなかったりします。特に視覚障がいの方は声を挙げなかったりします。例えば、他の図書館での事例ですが、希望する方に対しては、電話代は負担してもらいますが、決まった時間に図書館に電話を掛けていただいて本を読んであげるサービスを行なっています。この案は、大切なことで、そこに住んでいる人たちが、このまちが本当に住みやすく、過ごしていきたいという思えることが大切なことへ繋がります。また誰にでもなりうる可能性があるのでぜひブラッシュアップしてみてください。
- ・市民の会を早く立ち上げる⇒このようなことを頭のトレーニングのつもりで、取組むと良いかもしれません。会則をどうするか、代表をどうするか、具体化すると進めやすくなります。一方で、役所が声をかけてもうまくいきません。市民サイドで盛り上がり、立ち上がると上手くいきます。

④次回のワークショップについて（12月2日（土））

【次回：開催内容】

- ・前半で今回出された案をブラッシュアップしましょう。
- ・発表

【宿題：次回ワークショップまでに】

- ・グループの中で出されたアイデアをぜひ、同じような取り組みがされているか調べて見てください。先に取り組んでいる人たちから学ぶことが大切で、辛かったことや失敗したことが分かります。これは転ばぬ先の杖となります。そして、次回

の話し合いで披露してください。一人ひとつ探して来れば、かなりハイレベルなノウハウが得られます。もし、どうやって調べればよいか分からないときは、図書館には専門スタッフがいるので相談してください。市民が悩んでいること知りたいことを持ち込めば持ち込むほど、はじめは図書館員が対応に苦慮しますが、司書の技量は上がります。相談してください。

最後に、「自分で調べる力」を持つ必要があります。役所と一緒に何かをする、自分たちで何かをするには、これができないとほぼ無理です。成果を出している市民活動と、気分で行っている市民活動ではここで差がでます。違います。これから図書館と協働で行っていくときに必要となることはこの部分になります。今は小さな建物ですが、中味は素晴らしい図書館です。ぜひ良い図書館（司書・資料）を使い倒してください。それ事態が一つの協働となります。大変でしょうがぜひ、ここで少し調べて見てください。